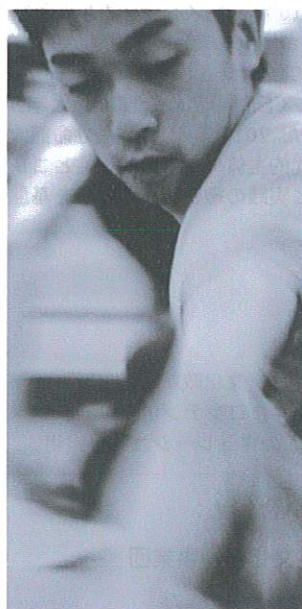


児玉北斗 × 越智雄磨

ミョーコースクール - ダンシング・モンスター! - 越智雄磨セレクション vol.2

MYOIKO SCHOOL

dancing ダンシング・モンスター! monster!



a. 児玉北斗 振付作品 上演

b. 越智雄磨 × 児玉北斗 ダンス対談

現代ダンス界を代表する振付家の巨匠たちとの創作や、初演キャスト出演、レパトリーでの活躍など、若くから北米やヨーロッパを拠点に名門劇場で活躍してきた児玉北斗が、小学生から高校生までのこどもを対象に8日間の試行錯誤のプロセスを共有して新作をクリエーションします!

日時 2019年9月22日(日) 14:00

開場 13:30

会場 妙高市文化ホール 大ホール舞台

944-0046 新潟県妙高市上町 9-2

入場料 一般 1,500円 / 高校生以下 500円

(前売・当日共、全席自由)

振付作品参加者募集!

創作日程: 9月14日(土)~9月21日(土)

対象: 小学校3年生~高校生くらいまでのダンスに興味があり、創作の参加と本番の出演ができる方。ジャンル・経験不問。
定員: 15名程度(参加料: 無料)

関連企画 児玉北斗 ダンス ワークショップ

日時: 9月15日(日)14:00-16:00 ※要事前申込

対象: 小学校3年生以上。ダンス経験不問。

定員: 15名程度(先着順。参加料: 500円)

※詳しくは妙高市文化ホールのウェブサイトをご覧ください。

こどもはよく、ダンスをおどっています。でも、大人になると、ダンスがよそよそしいものになってしまう気がします。一体、なぜでしょうか？身体が、いつのまにかコントロールすべきモノになってしまう。そういうプロセスがあるのかもしれませんが。

ダンスをする子供の圧倒的な他者性を目の前にして、大人はとまどう。なにかはちゃめちゃで、コミカルで、抑えることができない、そういう「動く身体」がそこにはある。大人になり、ダンサーになるとは、そういうダンスができなくなるということなのかな、と時々思います。

でも、そうでなければいけないとは思わないのです。なので今回は、色々なものを抱えながら日々変化し続けている、若いみなさん達と一緒に、ダンスをつくってみたいと思っています。僕にとっても、大きなチャレンジです。

「モンスター」とは、作り上げられた「他者」のイメージです。そこに私たちは恐れを抱く。でもそれは、同時に自分自身が失ってしまった何かを指し示している。「ダンシング・モンスター」たちは、その事を私たちに突きつけてくれるのかもしれませんが。(児玉北斗)

毎年、振付家をお招きして、トークと実演を行うシリーズ「MYOKO SKOOL」。今年フォーカスを当てるのは「ダンスとアイデンティティ」です。世界トップレベルの数々のバレエ団に所属して活動してきた、ダンサー・振付家の児玉北斗さんをお招きします。

バレエ一家に育ち、幼少よりバレエの英才教育を受けてきた児玉さんは、世界で5番目に古いバレエ団であるスウェーデン王立バレエ団にファースト・ソリストとして活動されてきた一流のダンサーです。また同時に、ストックホルム芸術大学や立命館大学でダンスの学術的な研究を行っている研究者でもあります。児玉さんのように実践と理論の双方に通じ、ダンスを創作されているアーティストは国際的に見ても稀有な存在といえるでしょう。

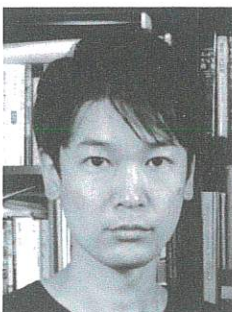
今回、児玉さんのこれまでのダンスの活動についてお話を聞くとともに、児玉さんとダンスが好きな妙高の子供たちとのクリエイションの成果発表「ダンシング・モンスター！」を見ることができるといいます。ぜひお見逃しなく。(越智雄磨)



Hokuto KODAMA

児玉 北斗 Hokuto KODAMA

幼少より両親のもとでバレエを始め、2000年ヴァルナ国際コンクール銀賞、サンフランシスコバレエスクール留学。2001年より2016年にかけてアルバータバレエ、レ・グランバレエ・カナディアン(ファースト・ソリスト)、ヨーテボリオペラ・ダンスカンパニー、スウェーデン王立バレエ(ファースト・ソリスト)にて活動した。ロイ・アサフ、ヴィム・ヴァンデケイビュス、マッツ・エック、ヨハン・インガー、アレクサンダー・エックマンなどの創作に参加、初演キャストを務めるほか、オハッド・ナハリン、サシャ・ヴァルツ、クリスタル・パイト、シャロン・エヤルなどのレパートリーでも活躍。2013年 JAPON danceproject を立ち上げ、その2014年と2016年の東京・新国立劇場の主催公演では、振付・出演・作曲を担当。2017年、初の単独公演としてソロ作品『Trace(s)』、同年に大植真太郎と共作で『inspiration/delusion of SWAN LAKE』を発表。2016年よりストックホルム芸術大学(DOCH) 修士課程に在籍し、2018年『Untitled (I speak, I lie, I admit)』を発表し修了。芸術学修士(振付)。同年夏には梅田宏明主催 Somatic Field Project 振付家ワークショップにてモデレーター・講師、平原慎太郎主催 OrganWorks 振付家育成講座「Terra.Co」にて講師を務めた他、筑波大学ダンス部、ジュニアカンパニー LAB などでもワークショップを指導した。2019年4月より、立命館大学大学院先端総合学術研究科一貫性博士課程(表象領域)に所属。近代的主体・身体性の政治性とコレオグラフィの連関について当事者的な問題意識を持ち続け、理論と実践の緻密な相互作用を基盤とした作品を制作している。 www.hokutokodama.com



Yuma OCHI

越智 雄磨 Yuma OCHI

1981年生まれ。早稲田大学坪内博士記念演劇博物館招聘研究員。日本学術振興会特別研究員、パリ第8大学客員研究員を経て現職。専門はフランスを中心としたコンテンポラリーダンスに関する歴史、文化政策、美学研究。早稲田大学演劇博物館および横浜赤レンガ倉庫において開催されたコンテンポラリーダンスに関する展覧会「Who Dance? 振付のアクチュアリティ」(2015-2017)のキュレーションを担当。

チケット取扱い：

- ・妙高市文化ホール 0255-72-9411
 - ・妙高高原観光案内所 0255-86-3911
 - ・上越ショッピングセンターアコーレ サービスカウンター 025-521-2502
 - ・ローソンチケット <http://l-tike.com/> 0570-084-003 Lコード 33926
- ローソン・ミニストップ店頭 Loppi

主催・お問い合わせ：

(公財) 妙高文化振興事業団
0255-72-9411

<http://myoko-bunka.jp/>

後援：妙高市教育委員会・上越市教育委員会

